

原水爆禁止世界大会実行委員会 御中

原水爆禁止2014年世界大会へ寄せて

広島・長崎に原爆が投下されてから六十九年、未だにたくさんの被爆者が苦しんでいます。また世界の各地では核兵器の拡散や戦争の脅威にさらされ、人類は「核」の脅威におびえながら生活しています。

東日本大震災により発生した福島第一原発の事故は、発生から三年以上が経過した現在も、汚染水漏れの問題等、終息の目途がたない状況にあり、未だ多くの方々
が避難生活を余儀なくされています。

国の安全神話が崩壊したこの事故は、今後の日本のエネルギー政策のあり方について、根源的な対策を投げかけているものと思います。

真の恒久平和は人類共通の願いであります。とりわけ我が国は、唯一の核被爆国として、核兵器の恐ろしさ、被爆者の苦しみをかみしめ、再び忌まわしい惨禍を繰り返してはなりません。

本世界大会は、平和への具体的な活動をアピールされる、大変意義深い大会であり、主催者に対しまして心から敬意を表します。

本市といたしましても、市民が平和で安心した生活を送ることができるよう、行政として最大限の努力を続けて参ります。

原水爆禁止2014年世界大会のご盛会と、貴会の益々のご発展を祈念申し上げます。



安曇野市長 宮澤 宗弘